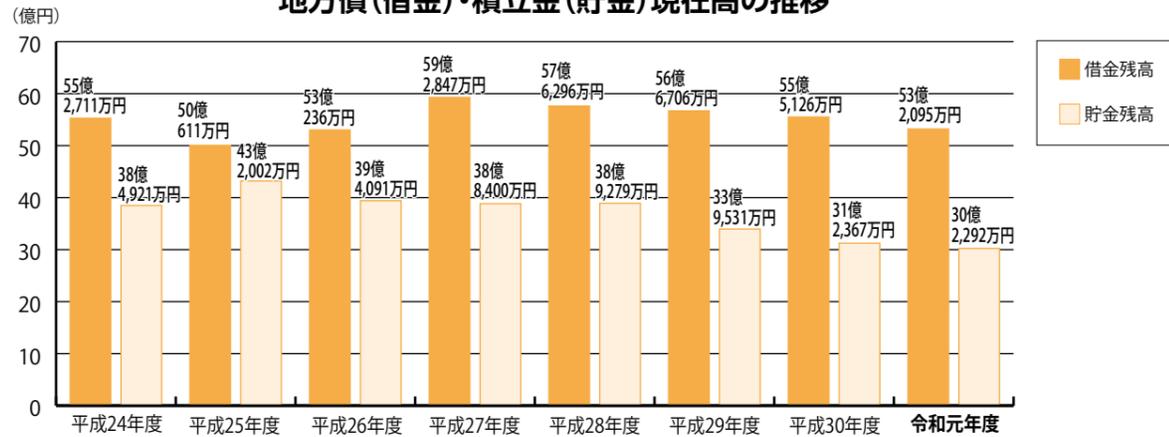


令和元年度 1年間の主な使いみち（一般会計）

◆ 議会費	7,080万円	◆ 農林水産業費	4億1,671万円
川根本町議会関係経費に	7,080万円	農林業センターの運営費として	3,914万円
◆ 総務費	9億2,943万円	農業振興に（茶業振興を含む）	2,416万円
本庁舎・総合支所の維持管理経費として	3,651万円	茶茗館等の運営費として	2,927万円
自治会の振興のために	2,601万円	林道改良事業に	1億5,254万円
高度情報基盤の運営や庁舎内情報機器維持などの情報政策費として	1億4,077万円	林業振興に	5,325万円
◆ 民生費	11億3,328万円	◆ 商工費	3億1,921万円
国民健康保険事業特別会計への繰出金として	6,249万円	商工業振興費として	3,071万円
介護保険費（繰出金・補助金等）	1億9,822万円	観光事業として	1億7,156万円
後期高齢者医療費（繰出金・負担金等）	1億6,652万円	音戯の郷運営費として	4,744万円
障がい者福祉の充実のために	1億7,205万円	ウッドハウスおろくぼ運営費（指定管理委託料含む）として	861万円
外出支援など老人福祉サービスのために	1億1,345万円	もりのくに運営費（指定管理委託料含む）として	1,835万円
保育園の運営費として	1億7,515万円	ユネスコエコパークの普及・推進のために	733万円
子育て支援対策として	3,373万円	◆ 労働費	184万円
子ども手当として	5,036万円	勤労者福祉の充実のため	184万円
◆ 衛生費	5億5,191万円	◆ 土木費	3億3,136万円
簡易水道事業特別会計への繰出金として	5,332万円	町営住宅の維持管理として	621万円
飲料水供給施設の管理・整備のために	1,091万円	町道や橋りょうの維持・改良事業のために	1億2,622万円
合併処理浄化槽補助金など環境衛生の向上のため	7,639万円	河川の改修、維持管理のために	1億5,537万円
母子保健・予防・各種健康診断のため	4,607万円	◆ 消防費	2億6,984万円
町民の健康増進に	1,659万円	常備消防事業費として	2億0,027万円
地域医療推進費（医療機器購入など）として	4,394万円	消防団員の報酬や消防団の設備整備経費に	3,673万円
し尿処理のために	8,064万円	消防施設整備のために	738万円
ごみ処理のために	1億3,794万円	自主防災組織の活動助成など災害対策費として	2,547万円
◆ 教育費	7億1,916万円	◆ 教育費	7億1,916万円
通学バスの運営費として	4,348万円	通学バスの運営費として	4,348万円
小中学校管理、教育振興のため	1億5,040万円	小中学校管理、教育振興のため	1億5,040万円
若者交流センター等の運営費	1億3,951万円	若者交流センター等の運営費	1億3,951万円
生涯学習の推進のために	820万円	生涯学習の推進のために	820万円
資料館運営経費として	966万円	資料館運営経費として	966万円
学校給食のために	6,664万円	学校給食のために	6,664万円
海洋センター運営費として	5,075万円	海洋センター運営費として	5,075万円
社会体育施設の整備、維持管理のために	1,304万円	社会体育施設の整備、維持管理のために	1,304万円
◆ 災害復旧費	5,545万円	◆ 災害復旧費	5,545万円
町道、林道の災害復旧のために	5,545万円	町道、林道の災害復旧のために	5,545万円
◆ 公債費	6億3,832万円	◆ 公債費	6億3,832万円
町債の元利償還金として	6億3,832万円	町債の元利償還金として	6億3,832万円

注）決算の区分は地方財政状況調査に基づきます。

地方債（借金）・積立金（貯金）現在高の推移



健全化判断比率及び資金不足比率の公表

健全化判断比率	川根本町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-（赤字なし）	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	-（赤字なし）	20.0%	30.0%
実質公債費比率	3.20%	25.0%	35.0%
将来負担比率	-	350.0%	

資金不足比率	川根本町	経営健全化基準
簡易水道事業会計	-（なし）	20.0%
温泉事業会計	-（なし）	

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、令和元年度の比率について、皆さんにお知らせします。

【実質赤字比率】
一般会計等（本町においては「一般会計」と「いやしの里診療所事業特別会計」）の赤字の大きさを示すもので、収入から支出を差し引いた額を標準財政規模（※）で割り算して算出した数値です。

【連結実質赤字比率】
すべての会計（本町においては、「一般会計」と6つの「特別会計」）における町全体の赤字の大きさを示すものです。すべての会計の赤字と黒字を合算した額を標準財政規模で割り算して算出した数値です。

※標準財政規模とは、町が1年間に通常収入される町税や普通交付税などの一般財源の規模

【連結実質赤字比率】

すべての会計（本町においては、「一般会計」と6つの「特別会計」）における町全体の赤字の大きさを示すものです。すべての会計の赤字と黒字を合算した額を標準財政規模で割り算して算出した数値です。

【資金不足比率】

町で運営している公営企業会計（本町においては「簡易水道事業特別会計」と「訪問看護事業特別会計」）の資金不足額の事業規模に対する割合を示す数値です。

【診断結果】

令和元年度決算では、昨年度同様、国で示す早期健全化基準を大きく下回っており、川根本町の財政状況は「健全」であると言えます。

しかし、将来負担に備えるための基金等の蓄えが減少しているといった心配な材料もあります。

【将来負担比率】

町が将来負担すべき金額（現時点で支払いが約束されているもの）の大きさを示すものです。

今後も、健全な財政運営を続けていくために、将来の負担を見据え、身の丈に合った予算を編成していきます。